

特攻隊員の思い 天童舞台に映画化

届け 散った君に

太平洋戦争末期に特攻隊に選ばれながら生き残った男性の思いをつづる映画「空人（くうじん）」の製作が、舞台となる天童市で進んでいる。未婚で亡くなった人が死後の世界で結ばれるようにとの思いを込めた「むかさり絵馬」を奉納する若松寺（天童市）が、ストーリーの重要なポイントとして描かれている。主要な出演者が集まった撮影が25日、若松寺で行われた。戦後70年を迎える2015年の劇場公開を予定している。

「むかさり絵馬」(若松寺) からドラマ

「空人」は実際に特攻隊 県在住Ⅱが、体験とフィクションに選ばれた経験を持つ清宮 ションを織り交ぜて脚本を 零氏(85)Ⅱ本名・勝一、埼玉 書いた。物語は、特攻隊と

なった主人公が、写真で見 た隊長の妹への恋慕から出 撃を忌避し、隊長が代わり

に出撃させられて帰らぬ人 となった場面が起点。戦後 60年、影を引きずって生き た主人公は病気で余命宣告 を受け、隊長の菩提(ぼだい)寺である若松寺に贖罪 (しよくざい)の旅に出る。

そこで、「むかさり絵馬」の シーンが登場し、思いもよ らぬ出会いと人間ドラマが 繰り広げられる。

清宮さんは、1945年 8月13日に特攻出撃の命を 受け、飛行場へ向かう列車 に乗ったが、移動中に終戦 を迎えた。「散っていった

主演の奥野匡さん(中央)、 ヒロインの高橋かおりさん (同奥)と地元出演者による 撮影が若松寺で行われた

戦後70年の開 15年 「戦争、次代に伝える」

多くの先輩、仲間の思いが、 心に残り続けている」と語 る。10年ほど前、友人から 聞いた「むかさり絵馬」と 若松寺の話に着想を得て、 何度も天童市を訪れなが ら、6年かけて作品を仕上 げた。

主人公は昨年のカンヌ国 際映画祭の出品作「ライク ・サムワン・イン・ラブ」 で主演した奥野匡さん、ヒ ロイン役は「北のカナリア たち」の高橋かおりさん、 監督は小沼雄一さん。25 日の撮影には奥野さん、 高橋さんのほか、天童市内 の企業関係者や市民らが エキストラとして参加し、 絵馬を奉納するシーンを撮 った。

「むかさり絵馬」の奉納 を続けているのは若松寺の ほかほとんどなく、全国 から奉納の要望が寄せられ ている。清宮さんは「絵馬 に感動し、物語が出来上が った。亡くなった方々に敬 意を込め、今の世代に戦争 のことを伝えたい」と静か に語った。

全体の半分以上を天童市 内で撮影。しよつゆ醸造所、 老人ホームなどで30日まで 行われる。



Ⅱ天童市